

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年10月号

関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

10月9日 研究授業について

10月9日、大綱中学校にて研究授業（授業者：大綱中学校 宮原啓輔教諭）が行われました。多数のご参加ありがとうございました。

【授業の概要】

近世、特に安土桃山～江戸初期の時代では、施政者である武士を中心に単元を進めることが多いのではないのでしょうか。「武」に着目しすぎると、「農」は「武士から税を搾取されるだけの存在」「一方的に支配される存在」といったイメージになってしまう恐れがあります。

授業者の問題意識として、百姓について、多角的・多面的に考察することで近世社会の特徴を理解するきっかけとしてほしいと考えています。つまり、「農」は単に支配される対象ではなく、国や領国を運営するためには不可欠な存在であり、「武」は国や領土の治安を維持し、百姓や下級武士たちが安定した生活をおこなうためには不可欠な存在であったのではないのでしょうか。

ということで、この単元では、さまざまな視点から「武」から見た「農」の存在を考察しようと思っています。

授業の詳細については、裏面の「授業実践例 ～歴史的分野『武』から見た『農』ってどんな存在？」を載せましたので参照ください。

【参加者感想】（一部）

- ・生徒のやるべきことがわかりやすい（生徒が安心できる）。時間の見通しが素晴らしい。余裕をもってまとめることができました。ありがとうございました。
- ・今回の授業を通して子どもが「？」をいんでいる様子が見えました。今後江戸時代を勉強していく中で、再び為政者の農民に対する視点についてふれることもあるのではと思いますが、今回の授業から戦国時代より時間をさかのぼって考える子どもいるのではと思いました。
- ・こういった最終的に自分の意見を示す授業では、生徒の考えが揺れる材料をもっと数多く用意する必要を感じる。たとえば 武士➡農 とられる存在というスタートでこの資料をみただけでは広がり期待できない ①武士<農民（豪農） ②死への危険性③農民の楽しみや年中行事…こういった多角的に考える用意で補てんすると効果的なのは…。最終的に答えが出てこの答も○あの答えも○という状態が好ましい。



自分がどのように変化したかということを検証していくことが深い学びでの一つの側面であると考えます。単一の授業で深い学びを考えるのではなく、単元などスパンを大切にします。この授業は結論を求めるのか？考えるきっかけになっていくものなのか？どこに位置するのかを整理することがより授業をよくすると感じた。

- ・ 授業者の先生、浜中社の先生方、本当にお疲れさまでした。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 共有方法が参考となりました。
- ・ 席を回る方法などおもしろかったです。準備からありがとうございました。



10月23日 地理部会 @老松中学校

今回は大野先生の研究授業指導案(11/27@浦島丘中)を中心に先生方で検討を行いました。その後、推進委員の先生方が書いた中部地方の単元の指導案検討を行いました。今回出た単元名は次の通りです。

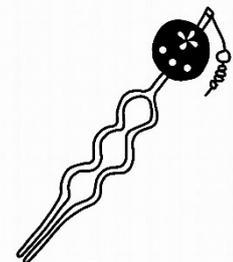
- ・ 「ものづくり産業が未来をつくる」
- ・ 「なぜ、長野県でそばが有名になったのだろうか？～気候や地形からその理由を考えてみよう～」
- ・ 「なぜ、トヨタは世界一の自動車メーカーになったのか？」
- ・ 「いち早く愛知県に行きたい人の目的とは～愛知県の交通と産業～」

検討の中で、同じテーマで違う切り口の授業を行うのも面白いのではという話がありました。(例 「中央新幹線が開通して山梨県はどうなるか？」「中央新幹線が開通して日本の産業構造はどのようにかわるのか？」など・・・)

地理的分野 研究授業のお知らせ

- 1 実施日時 11月27日(水)13:30～
- 2 クラス 浦島丘中2-1
- 3 授業者 大野 陽平 教諭
- 4 単元名 「ものづくり産業が未来をつくる」
～日本の諸地域・中部地方(他地域との結びつきを視点にして)～
- 5 授業の概要(予定)

北陸の地場産業(鯖江のメガネフレームなど)について、その成り立ちから、厳しい現状までを生徒と確認する中で、他地域との結びつき(特に海外)から持続可能性を探る授業にしたいと考えています。各学校に案内が届いていますので、回覧をお願いします。



11月の研究授業、どうぞご期待ください！！